

平成 28 年度 活動の記録
(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

自然災害から身を守ろう！



(台風 10 号に伴う大雨による土石流災害現場：岩泉町)

平成 28 年 8 月 30 日、大船渡市付近に上陸した台風 10 号に伴う大雨により、県内では死者・行方不明者 23 名に及ぶ災害が発生しました。特に、小本川・安家川およびその支流で河川が氾濫し、甚大な被害が出ました。一方、土石流危険渓流の多くでも土石流が発生し、人家に土砂が流れ込むなどの土砂災害が多発しましたが、事前の避難などにより犠牲者はありませんでした。

大雨や地震は、いつどこでも発生する可能性があります。土砂災害防止に向けた普及啓発活動は益々重要になっています。

特定非営利活動法人 防災ネットいわて

業務実施の方針

平成 28 年度は、昨年に引き続き、次の方針で事業を実施しました。

- ・ 調査研究，提案，研修活動等を通して，組織活動の活発化を図る。
- ・ 地域の問題解決を図るため，他団体からの受託事業を円滑に実施し，積極的な事業展開を図る。

活動概要

本年度の活動は，例年通りの委託事業や土砂災害写真パネル展を実施しました。岩手県からの委託事業である土砂災害防止法基礎調査説明会補助業務は，平成 28 年度で 11 年目となり，写真パネル展と共に当 NPO の主要な活動となっています。

写真パネル展は今回も岩手県砂防災害課と共同で開催しました。県内外で発生した土砂災害状況等の写真パネルや小中学生が作成した土砂災害防止啓発ポスター等を展示しました。特に，4 月に発生した熊本地震の被災状況については，特別ブースを設けて展示しました。

今年も岩手県や市町村職員をはじめ，多くの方々にご協力いただき，活動を続けることができました。改めて感謝申し上げます。

実施した事業および主な活動

【岩手の土砂災害写真パネル展】

実施日時：平成 28 年 6 月 6～17 日 9:00～17:00

実施場所：岩手県庁 1 階県民室

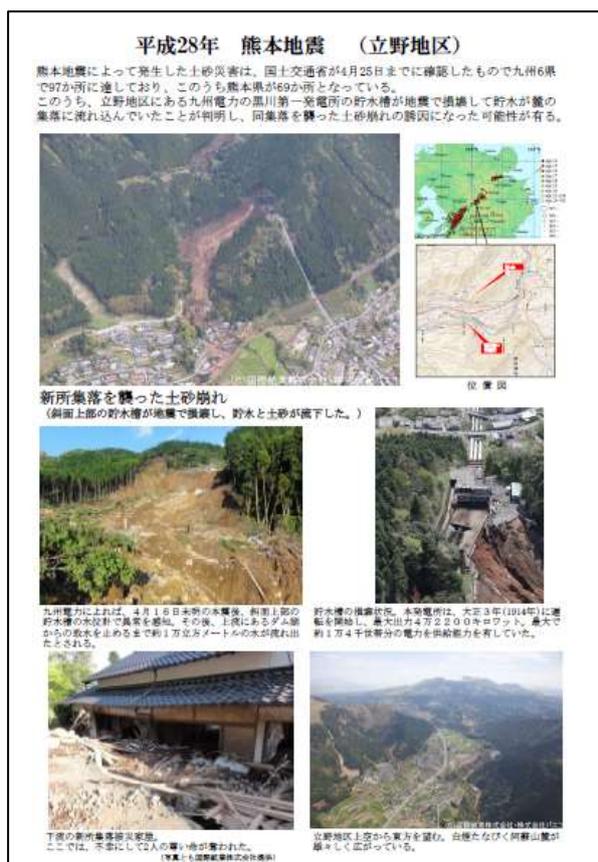
岩手県県土整備部砂防災害課との共催で，写真パネル展を土砂災害防止月間である 6 月に開催しました。

今回のパネル展は県内の土砂災害の他，平成 28 年 4 月に発生した熊本地震による被災状況を整理し，特別展示しました。熊本地震は九州中央部に分布する活断層

(布田川断層帯・日奈久断層帯)の活動によるもので，地震発生の可能性が高いグループとされていました。一連の地震活動で震度 7 が二回(14 日，16 日)観測され，有感地震回数も非常に多い特徴があります。地震による直接の死者数は 50 名，負傷者 2,600



名以上、住家被害約 18 万棟に上る大災害となりました。12 月時点でも約 1,300 名に避難指示・避難勧告が発令されたままとなっており、影響は今も続いています。



【土砂災害基礎調査説明会住民周知事業】

岩手県から委託を受けて実施している同事業は、11 年目となりました。土砂災害防止法に基づく基礎調査結果・警戒区域指定に関する説明会の資料配布と、説明会受付、説明補助、議事録の作成および住民の意識調査を行っています。

平成 28 年度中は、盛岡土木部管内の滝沢市・紫波町・雫石町，花巻土木センター管内の花巻市，大船渡土木センター管内の大船渡市・陸前高田市・住田町，県北土木部管内の久慈市・洋野町・野田村・普代村，二戸土木センター管内の二戸市・九戸村でそれぞれ業務を実施しました。



盛岡土木部管内 (滝沢市)



盛岡土木部管内 (雫石町)

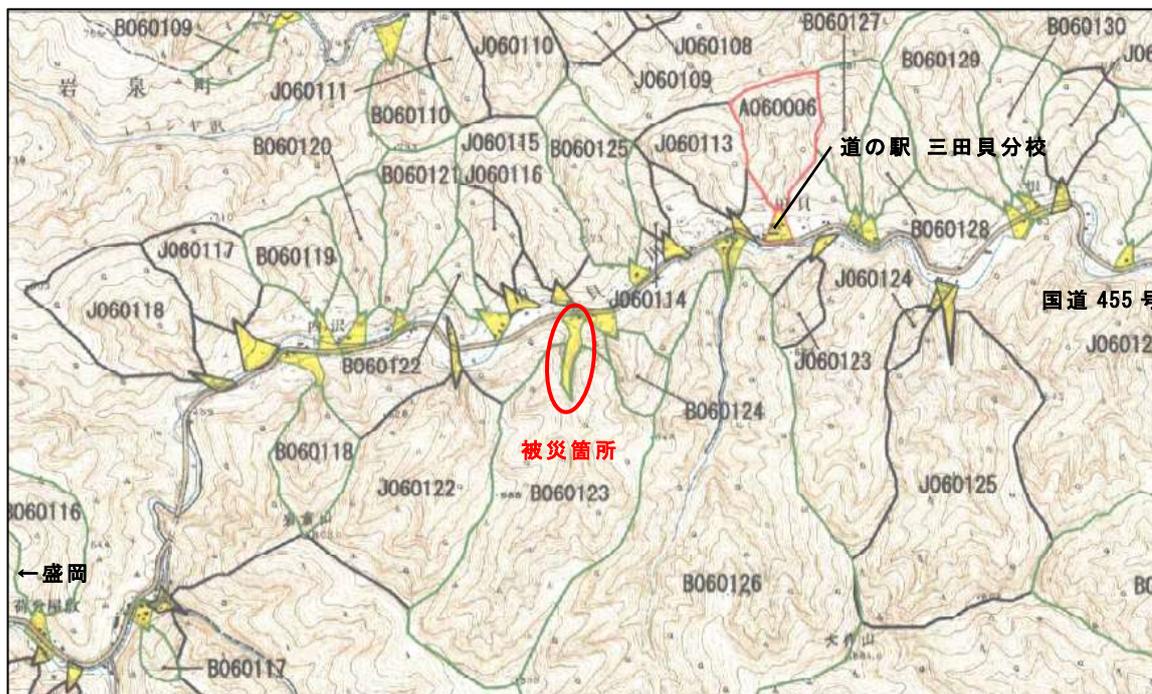


【台風 10 号による岩泉町内の土砂災害状況】

平成 28 年 8 月 30 日、台風 10 号が大船渡市付近に上陸しました。台風 10 号は日本の南で複雑な動きをした後に、気象庁統計開始(1951 年)以来初めて東北地方の太平洋側に上陸した台風となりました。これにより、県内では沿岸部を中心に記録的な大雨となり、死者 20 名、行方不明者 3 名、家屋や道路等の損壊多数の大災害となりました。

県内の土砂災害は国交省のまとめによると、土石流等が 146 箇所、がけ崩れ 9 箇所、負傷者 1 名、人家被害 86 戸となっています(平成 28 年 11 月 16 日現在)。土石流等 146 箇所のうち 116 箇所は岩泉町で発生しました。岩泉町内の土石流危険渓流は 670 箇所あり(平成 12 年調査)、県内市町村では一関市に次ぐ多さとなります。

岩手大学理工学部の大河原准教授によると、土石流危険渓流の 6 割以上で土石流が発生したとのこと。そのうちの 1 箇所、岩泉町門字南三田貝の被災状況を紹介します。



(「岩泉町土石流危険渓流位置図 7-5」から一部抜粋，加工)

被災家屋は国道 455 号沿いにあり、三田貝川流域の家屋の中では比較的大きな被害とされます。土石流が発生した溪流は土石流危険溪流Ⅱ（保全人家戸数 1 戸～4 戸）に区分され、国道沿いが土石流危険区域（黄色着色部：土石流の堆積や氾濫が予想される区域）となっています。土砂災害警戒区域には指定されていませんが、住民は当日の夕方、避難所へ避難していたということで、人的被害はありませんでした。

専門家の調査によると、岩泉町の山間部は岩盤が硬く、もともと保水力の低い表土層が短時間の豪雨により雨水を含みきれず、土石流や土砂崩れが広範囲で発生したと分析しています（岩手県 HP）。

	
<p>【家屋の被災状況（溪流上流から撮影）】</p> <p>土石流堆積物の厚さは 1 m 程度。土石流発生前の流路は、写真の右端部分であったそうです。流れる水は澄んでいた。</p>	<p>【土砂で埋まった家屋】</p> <p>家屋の背後から土石流が押し寄せ、窓を突き破り、室内に土砂が流入した。堆積物の厚さは 1 m 以上。</p>
	
<p>【室内の砂礫を排出中】</p> <p>9 月 11 日の状況。親戚などの手を借り、小型運搬車や一輪車などで室内から砂礫を排出。窓や壁は破損、変形しているものの、柱などに大きな損傷は見られない。</p>	<p>【破損した家具等の撤去状況】</p> <p>家具や建具、布団、衣類などのほとんどは破棄。食器類は沢水で洗い、小屋で乾燥、保管。</p>

	
<p>【小規模な表層すべり】 住家から上流 300m 付近(左岸)。高さ 10～20m の地すべりを 2 箇所確認。</p>	<p>【溪床堆積物の小崩壊】 住家から上流 300m 付近(右岸)。厚く堆積していた溪床の土砂が、大雨により流出したと考えられる。</p>

◆ 会員の活動から

3 月 11 日 14 時 46 分、小倉会員がボランティアで設計した久慈震災復興モニュメント(東日本大震災モニュメント・ケルン・鎮魂の鐘と光：NPO 法人岩手・久慈ケルンの会)を、太陽光が貫通しました。



<p align="center">平成 28 年度 活動の記録 (平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)</p>
<p align="center">平成 29 年 1 月 27 日 発行</p>
<p>編 著：特定非営利活動法人 防災ネットいわて 〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ 4-4-20 TEL:019-643-8890 FAX:019-643-8892 E-Mail: bni@eins.rnac.ne.jp URL: http://www.eins.rnac.ne.jp/~bni</p>